

松戸商工会議所会頭賞 心がける小さな親切

松戸市立小金南中学校 二年

長瀬 優奈

私は家から少し遠い所に行く際、よくバスを利用しています。そして目的地に着く時、運転士の方の元で運賃を支払うと同時にいつも感謝の気持ちを言う事を心がけています。

「ありがとうございます。」
と一言、運転士の方へ。

そうやって人へ感謝する気持ちを心がけた理由は、私の幼い頃にあります。

母と昔、よくバスに乗って出かけることがありました。その際、母はいつもバスの運転士の方に言っていた、

「ありがとうございます。」
そしてバスから降りて私は一言、「なんで『ありがとうございます』っていったの。」

と、幼いながらの疑問で母に言いました。

「ここまで乗せてもらったお礼で、その一言で相手の人も良い気持ちになるから。」

そんな母からの言葉を聞いてから、感謝の気持ちを一言でも、何か良いことをしてくれた人にと、そこからお世話になった人へ感謝の気持ちを言うようになりました。母は、

「誰かに親切なことをされたら、お互いに少しでも良い気分になるでしょう。」

と言われてからも、さりげない些細なことでも感謝の気持ちを一言でも言うだけで、お互いに良い気分させると知ってから、バスの運転士の方にはお世話になってるので、母の影響もあってから言うようになり、日頃の感謝の気持ちと一言、そして誰かへの親切を忘れないようにしようと思えました。確かに親切にされたら、感謝の一言も言いたくなるものだと思います。親切はたとえどんなに小さなものでも、たった一言で感謝をするだけで、お互いに良い気持ちになる。私はこのことに、『魔法』のようなものだと思います。

思いやることは、どんな人にも

でも常にしていることだと私は思います。そして誰かを少しでも思いやるだけで、その誰かは救われた気持ちにさせることができると思えました。

思いやりの心を持つとすることでも、私はそれでいいと思います。行動にいくら移すことができなくても、その気持ちや考えがある時点で誰かの気持ちが少しでも救われると思うからです。お世話になった人に、感謝の気持ちを言えなければせめて一礼でもするだけで、お互い一寸でも良い気持ちになるはず。そのため私はバスを降りる前、少しの間だけでもお世話になった、乗せて頂いたということだけでも有り難いもの。それを理由に感謝の気持ちを込めて運転士の方に言う。

「ありがとうございます。」
と一言。運賃を支払い下車をする。どんなに小さな親切でも、思いやることは誰かを救うものだ、改めて思いました。